

福島民友

THE FUKUSHIMA MINYU

2019年(令和元年)9月4日(水曜日)

7版

10

HOMETOWN 地域ワイド

万世大路 探訪しよう

講演や交流会 参加者を募集

20日まで

街道を生かした地域づくりを目指す「とうほく街道会議第15回交流会 万世大路・福島大会」は27、28の両日、福島市のこむこむを主会場に開かれる。20日まで、参加者を募集している。

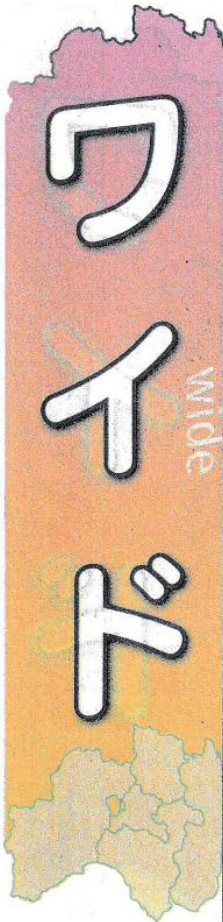
向市と山形県米沢市を結ぶ「万世大路」がテーマ。初日は魔道探検家の平沼義之さんによる基調講演のほか、分科会、交流会が開かれる。2日目は「万世大路を歩く」、「米沢街道と李平宿と石畳を訪ねて」、「奥州街道・福島城下を歩く」の3コースに分かれての街道探訪会を開く。参加費は交流会4千円、街道探訪会1500円(半日コースは千円)。基調講

2日目の街道探訪会で訪れる、万世大路に残るトンネル跡の二ツ小屋隧道



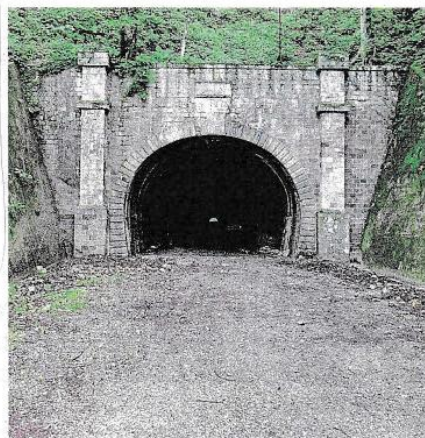
演と分科会は無料。詳細は「とうほく街道会議」のホームページで確認できる。申し込み、問い合わせは同市路政課内の事務局(電話024・525・3770)へ。二ツ小屋隧道保存会事務局の高橋一夫幹事、同市路政課の車田和昭課長、矢野勝一事業調整係長、須藤美友紀さんは2日、福島民友新聞社を訪れ、参加を呼び掛けた。

(9)



27、28日 交流会万世大路・福島大会

講演や 20日まで参加者募る 現地散策



万世大路の二ツ小屋隧道

街道をキーワードに東北地方の魅力を掘り起す「とうほく街道会議」の第十五回交流会万世大路・福島大会は二十七、二十八の両日、福島市のこむこむで開かれる。

実行委員会の主催。沼義之さんが「万世大路」の華麗なる復活劇に見る『廃道』の活用可能性」と題して基調講演する。引き続きフリーライターの平

生かした地域活性化や観光振興などについて考える。同六時からは交流会を開く。

二十八日は三コースに分かれて現地を歩く「街道探訪会」を催す。万世大路と米沢街道コースは既に定員に達しているが、奥州街道を訪ねる第三コースは空きがある。

両日ともに事前申し込みが必要。締め切りは二十日。二十七日の交流会、二十八日の街道探訪会は参加費がかかる。

問い合わせは実行委事務局(市建設部路政課) 電話024(525)3770へ。

万世大路「廃道の聖地」

とうほく街道会議 歴史や魅力再認識



分科会で万世大路を活用した地域活性化などについて討論する有識者

東北の街道を生かした地域づくりに取り組む「とうほく街道会議」の第15回交流会福島大会は27日、福島市で始まった。基調講演などを通し、参加者が同市と山形県米沢市を結ぶ「万世大路」の歴史や観光資源としての魅力を再認識した。

万世大路は1881(明治14)年に開通。当時国内最長のトンネルが掘られるなど最先端技術が用いられた。国道13号整備に伴い昭和40年代に廃道となった。

本県開催は3度目で県内外から約290人が参加。主催の福島大会実行委員会を代表し木幡浩福島市長、とうほく街道会議の宮原育子会長らがあいさつした。基調講演では、廃道探検家の平沼義之さん(41)が「万世大路は『廃道の聖地』で、全国のファンからの人気は絶大。安全性に配慮した上で、土木構造物を良く『魅せる』ための工夫ある整備を進めてほしい」と熱弁を振るった。分科会も開かれ、有識者らが討論した。最終日の28日は万世大路

や米沢、奥州両街道の街道探訪会が開かれる。関連企画展や講座 関連企画展「明治の東北巡幸と福島町そして万世大路」は10月4日まで、福島市のこむこむで開かれている。今月29日には午前10時30分から米沢街道、午後1時30分から東北巡幸と万世大路に関する講座を開く。



東北地方の魅力探る

きょう「街道会議」福島大会
まで

街道をキーワードに
東北地方の魅力を掘り
起こす「とうほく街道
会議」の第十五回交流
基礎講演する平沼さん

会万世大路・福島大会は二十七日、福島市のこむこむで始まった。オープニングセレモニーでは、飯坂八幡神社祭り太鼓保存会が飯坂太鼓の演奏を披露した。廃道探検家の平沼義之さんが「『万世大路』の華麗なる復活劇に見る『廃道』の活用可能性」と題し基調講演した。平沼さんは実際に訪れた廃道の写真を見せながら、魅力を語った。分科会では、万世大路の歴史や街道を生かした地域活性化と観光創造について意見を交わした。

福 島 民 友



HOMETOWN ネット59

「万世大路」の魅力体感

「とうほく街道会議第15回交流会福島大会」は最終日の28日、福島市で街道探訪会が開かれ、参加者が同市と山形県米沢市を結ぶ「万世大路」の魅力を体感した一写真。

参加者は万世大路に残る「二ツ小屋隧道」などを巡り、当時の高い土木技術などに理解を深めた。ほかにも「米沢街道」「奥州街道・福島城下」をテーマにした探訪も行われた。万世大路は1881(明治14)

年に開通。当時国内最長のトンネルが掘られるなど時代に合わせた最先端技術が用いられた。国道13号整備に伴い昭和40年代に廃道となっている。





廃道の聖地

全国の廃道を探検する達人に言わせると、万世大路は「廃道の聖地」なのだという。明治の新しい国造りの中で、山形県の米沢と本県側の福島を結ぶ道は、奥羽山脈の栗子越えの新道が切り開かれた。交通形態の変化とともに道も世代交代してきたが、最高の技術や資金が注ぎ込まれた道路、橋、トンネルなどの遺構は、時代の移ろいと風雪にさらされながら不思議な魅力をまとって現代人の心を引き付ける。安全性などの距離感を測りながら、地域の宝物として活用法を探っていく。

九月、福島市で開いた。題材として取り上げたのが万世大路だ。万世大路は「土木県令」二鬼県令などと言われた三島通庸の号令で着手され「八八」（明治十四）年に開通、明治天皇が命名した。交流会で基調講演した廃道探検家の平沼

れた二つの坑口を残す。坑門に意匠が施された二ツ小屋障子は厳冬期、崩落した内壁からの流水が幻想的な氷柱の景色を作り出す。緑の中にたたく橋や集落の跡も、廃れゆく独特の美を醸している。全国からファンが足を運ぶのも分かる気がする。

貴重な魅力を抱く万世大路だが、廃道ゆえの危険もあり、一般人が軽い気持ちで近づける場所ではないのも事実だ。関係者が催すツアーに参加するのが無難だろう。有料のツアーが定着し、環境整備までつながれば望ましい。

義之さんは、往時の幹線道路としての存在感を示す多彩な遺構、建設から廃道までの経過、格調高い名前などから廃道ファンにとっては巡礼すべき聖地だと熱弁した。

日本初の長大トンネルである栗子隧道（八百七十六）は米沢側に明治と昭和に掘ら

万世大路が歴史の道百選「産業近代化遺産」「選奨土木遺産」などに選ばれ再評価される中、山形、福島両県それぞれの有志の組織が倒木処理、草刈り、土砂除去、路面整備などにボランティアで取り組んでいる。感謝するファンは多いはずだ。

二〇一七（平成二十九）年に栗子トンネル（八千九百七十二）を擁して開通した東北中央自動車道は、福島・米沢両市を四十分ほどで結ぶ。交流会で専門家は米沢街道、スイッチバックの難所があった奥羽本線なども含め、一帯は交通路の進化を観察、体験できる「交通博物館」だと唱えた。タモリさんに番組で来ていただければ認知度は全国区になる。（佐久間 順）

万世大路は地域の宝

論

説

街道をキーワードに東北地方の魅力づくりを目指す人たちによる「とっほく街道会議」は、十五回目となる交流会を

は米沢側に明治と昭和に掘ら

区になる。（佐久間 順）